

クラス	Q310	担当教員	山田 麻紗子
テーマ	「少年非行、犯罪の心理・社会的理解と立ち直りへの支援」		
著書・論文	「家庭裁判所におけるアセスメント」(臨床心理査定研究セミナー「現代のエスプリ」別冊 至文堂 2007.4 共著) 「DVを背景としたある累犯者のケース」(司法福祉学研究 第7号 2007.8) 「現代の子どもと少年法改正の動向」(子どもと福祉 Vol1 2008.7) 他		
研究課題等	「熱田介護殺人事件犯罪心理鑑定」2009.7 「『闇サイト』殺人死体遺棄事件犯罪心理鑑定」2010.2. 他 研究課題等：少年非行・犯罪の心理・社会的理解と立ち直り支援方法、犯罪心理鑑定、家族間力働、家族心理臨床、心理テスト		
ゼミナール概要			
キーワード：少年非行 犯罪心理鑑定 心理・社会的調査技法 立ち直り支援			
目的、内容、方法、授業計画等： <はじめに> 担当教員は、長年家庭裁判所調査官として非行臨床や家族・親族間で起こる様々な問題に携わり、支援を実践してきました。少年非行および家族、特に夫婦間の争いの問題(離婚、子どもの親権者、面接交渉等を巡る対立、DVなど)、児童虐待等多くのケースを担当し、子どもの声を大人に届け、子どもにとっての幸福を目指す解決方法を考えてきました。また、犯罪心理鑑定を通じて成人犯罪者の背景にも、成育過程に親の不和、暴力、貧困、虐待などの辛酸な体験、寂しい心を家族や周囲の誰からも理解されずに孤立していた過去があると学びました。偏見に囚われず的確な目で人と非行や犯罪を捉え、立ち直り支援の必要な人に暖かさを届けるには、福祉や教育、臨床心理で学ぶ視点が不可欠です。 <ゼミの目的> このゼミでは、①自分の言葉で考え相手に伝える力、②自主的に学ぶ面白さ、③共同で学ぶ楽しさ、④フィールドで実体験をするなどを身につけます。そのために、①毎回1分間スピーチで全員が発表します。即席の発表はゼミの仲間同士の親しみを深めています。②グループ学習やピアレビュー、発表を大事にします。③関心のあるテーマを納得行くまで調べ、協力して学びを深め、レポートにまとめることは4年次での卒論研究につながって行きます。④また、フィールドワークで机上では学べない実践ができます。 <授業内容> 専門演習Ⅰでは、文献学習として①少年非行の処遇の流れとその基本的知識、②重大少年事件の実証的研究他を学び、初めてのレポートも書いてもらいます。事例検討では、事前学習として①面接の仕方や内容、②心理テスト(バウムテスト、風景構成法等の描画)体験を行った後、事例として、犯罪心理鑑定書の一部などを資料にして行います。これにより、少年非行の真相を心理・社会的に理解し、立ち直りのために適切な支援やこれを行うための方法、課題などを学びます。合わせて被害者の視点も入れて真の更生についても考えます。また、知見を深めるため、家庭裁判所、少年院、少年刑務所、児童相談所、児童自立支援施設の見学、地方裁判所の裁判員裁判の模擬裁判や家庭裁判所の模擬審判への参加、地方裁判所の裁判傍聴、少年刑務所の親の会との交流などを可能な限り実施しています。3年生時春休みには、長野県松本市、安曇野市で1泊2日の合宿と見学学習を行います。 専門演習Ⅱでは卒論作成が目標になりますので、それぞれのテーマを決めて文献を読む、調べる、論文を書く、発表する、講評を受けるなど、卒論指導が中心になります。毎年1回は外部講師を招いて3、4年生合同の授業を行っています。			
担当教員からのメッセージ			
少年非行や犯罪に関心があり、その実際を多面的に理解したいと希望し、問題意識を持って主体的にゼミに参加する学生、教員・仲間と共に一緒にゼミを作り上げて行ける学生を期待しています。3、4年生の合同コンパでは、先輩との親睦や情報交換の場で楽しいですよ。また、ゼミの卒業生との交流もあり、進路のアドバイスももらえます。			